

## ● 白血球減少による感染

成人の正常な白血球の数は2,000～8,000/ $\mu$ lとされています。白血球の数が少なくなると、病原菌(細菌)に対する体の抵抗力が弱くなり、いろいろな部位(口、肺、皮膚、尿路、腸、肛門、性器など)で感染症を起こしやすくなります。抗がん剤が投与されて白血球が最も低い値になるのは7～14日目頃であり、この頃には感染のリスクが高くなります。白血球数が低下し、微熱が出れば抗菌薬や抗生物質が使われます。白血球が過度に減少した場合には、白血球を増やす手段として顆粒球コロニー形成増殖因子(G-CSF)の注射薬が使われます。

日常生活における注意点は、人ごみに出たりペットに触れることは極力控え、手洗いやうがいをしっかり行い、十分な栄養補給と睡眠により体力を確保しておくことがポイントとなります。

### <感染症が疑われる症状>

- 38℃以上の発熱・寒気、ふるえ・せき、のどの痛み
- 歯肉炎、虫歯、口内炎・下痢、腹痛・肛門痛
- 排尿時の痛み、血尿、頻尿、排尿後も尿が残る感じ
- 皮膚の発疹、発赤・おりものの増加、性器出血、陰部のかゆみ

### <病院で行われる感染症の対策>

- 血液検査(白血球数、好中球数、ヘモグロビン、血小板数)  
(白血球の数値によっては、治療を延期する場合があります)
- 白血球を増やすための薬(顆粒球コロニー形成増殖因子:G-CSF)の投与
- 抗生物質の投与

### <セルフケアのポイント>

- 手洗い、うがいをしっかりしましょう。
- 体を清潔に保ち、トイレ後、陰部を洗浄することや皮膚を乾燥させないことを心がけてください。
- 口の中を清潔に保つために、食後、寝る前の歯磨きを行いましょう。
- 風をひいている人には近づかない方が良いでしょう。
- 切り傷に気を付けてください



### ◆ 次のような症状があるときはすぐに医療スタッフに連絡しましょう！

38℃以上の発熱、寒気、ふるえを感じたとき、発熱を伴って、せき、下痢、排尿時の痛みや排尿後も尿が残る感じ、性器痛、肛門痛などの感染の症状が現れたら、早めに医療スタッフに連絡していただくことが大切になります。